



## AMDA フィリピン支部 新型コロナウイルス感染症の影響に対する活動 報告書

(2020年3月23日～27日)

### 背景：

現在、世界では新型コロナウイルスの影響により、多くの人々が命の危険に晒されている。フィリピンではこれまで約1,000人の感染が報告されており、その数は劇的に増え続けている。政府はこれを公衆衛生上の危機と見なし、全国規模で厳粛な都市封鎖を実施。コミュニティー単位での検疫体制を敷いている。公民を問わず、外来患者を診る診療所は閉鎖されており、いずれの病院も新型コロナウイルス感染検査中の有症状者(PUI)や自宅隔離措置で経過観察中の無症状者(PUM)を優先的に受け入れている。

「どこに医療ケアを求めているのかわからない」、「誰に相談しているのかわからない」といった声が聞かれる中、高齢の患者は日々の薬をどこで処方してもらっているのかわからず、また一部の患者は精神不安からメンタルヘルス面でのケアが必要な状態であり、事態は混乱を極めていく。

このような公衆衛生上の危機的状況を受け、AMDA フィリピン支部は、Global Health Pharmacy Network、ブローケンシャー大学薬学薬学部と協力して、オンライン無料医療相談を開始。診察はもとより、薬に関する相談、精神面での応急処置などを無料でやっている。

今回の対応は、フィリピン国民の一致団結を目的とした“誰も置き去りにしない”という呼び掛けに一早く呼応したものである。AMDA フィリピン支部は、特に医療機関に無料がかかることができない人々の健康に重点を置き、活動を始めた。

**FREE ONLINE CONSULTATION**  
8 AM - 3 PM

**OUR SERVICES**  
Medical Consultation  
Medication Counseling  
Psychological First Aid  
Medication Review

**FREE REGISTRATION AT:**  
<https://forms.gle/4h2GfWVvnuuN5rKx6d>

**CONTACT US**  
+63 977 436 9421 (Dr. Erwin)  
+63 905 214 0774 (Dr. Erwin)  
+63 905 534 4337 (Dr. Elroy)  
+63 915 054 0852 (Ms. JY)  
+63 947 556 8148 (Sr. Ernest)

**FOLLOW US on Twitter**  
@HOMR\_BC2020

**VOLUNTEERS**  
Dr. Ryan Elroy L. Navarro, MD  
Dr. Erico Tanio Davillo, MD  
Dr. Erwin M. Fuller, RN  
Ms. Jessie Sun Hary, RN, MSN  
Mrs. Leah Mae Jobiles, RSW  
Mr. Ernesto Torrecampo II, RN  
Dr. Romeo Reyes, RN  
Mr. Kristoffer John Caniz, RN, MSN  
Mr. Paul Adrian Sabido, RN

**CALL FOR VOLUNTEERS**  
OPEN TO ALL ALLIED HEALTH PROFESSIONALS AND STUDENTS  
If INTERESTED, inform any of the following contact persons.  
Your time & volunteerism is of great help in this time of public health emergency.

オンライン無料医療相談を開始するにあたり、当初9名のボランティア医療従事者からなる合同チームが結成された。現在、その数は34名まで増え、産婦人科、神経科、外科、皮膚科、内科、小児科、産業医学、泌尿器科等を専門とするスタッフが相談者の対応を行っている。以下の表は、専門分野ごとにスタッフの人数を記したものである。



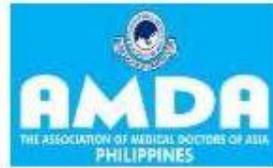
ボランティア	人数	役割
医師	20	産業医学、皮膚科、産婦人科、小児科、泌尿器科、総合診療科、一般内科、神経科、救急科、眼科、その他を専門とする医師
薬剤師	8	トリアージ、患者のデータ収集、調査、薬の服用に関する相談と見直し
看護師	2	患者のデータ管理、精神面での応急処置
ソーシャルワーカー	2	精神面での応急処置
ボランティア	2	データ収集、ソーシャルメディアへの発信
計	34	

#### オンライン無料医療相談の具体的な進め方：

今回の活動では、2020年3月23日から相談者からの情報収集を開始し、翌24日から医師によるオンライン無料医療相談を開始した。情報発信に関してはTwitterやFacebook、Instagramなどのソーシャルメディアを通じて、ポスターを拡散した。同時に、フィリピン南部ミンダナオ島ダバオ・デ・オロでは、地元にいる同僚達が、地元の村で医療相談が必要な人にAMDAフィリピン支部の活動を情報発信した。同日、初段階として様々な症状を訴える6名の相談者に対応することができた。

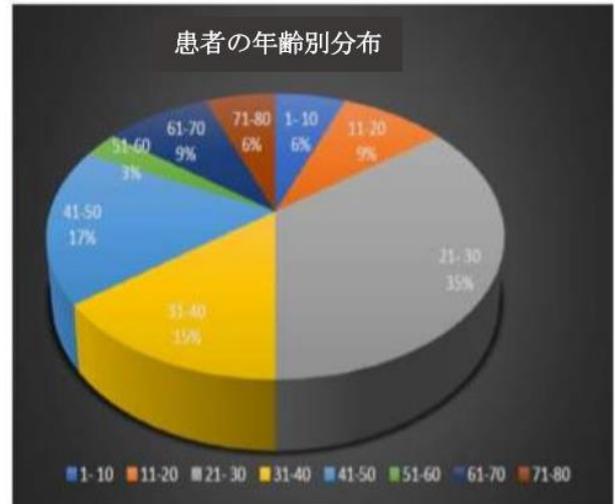


名前、年齢、体重、住所、メールアドレス、連絡先などの個人情報情報は、携帯電話やFacebook Messenger、Google フォームなどを利用して集め、医学的な判断を下す上で重要と思われる情報(主訴、既往歴、服用薬、生活歴)を聴取した。またこれらの情報は、法律に則り厳重に管理されることを説明し、その取り扱いについて、相談者と双方で合意した上で、オンライン無料医療相談が行われた。



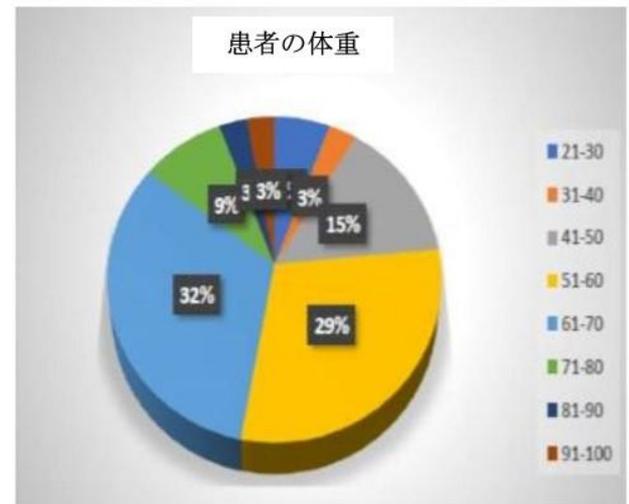
相談者の統計について：

年齢：グラフにあるように、3月23日から27日にかけて様々な年齢層の方の相談を受けた。年齢別に見て21歳から30歳まで(35%)が最も多く、次いで41歳から50歳まで(17%)、61歳から70歳まで(9%)といった年齢分布となっており、これはフィリピンの人口分布を反映している。そして、この年代は高血圧や糖尿病、その他生活習慣病に罹患しているまたは予備軍の人が多。この他、呼吸器感染や湿疹等にかかりやすい10歳以下の年齢区分が全体の6%を占めている。



体重：

相談者の体重別区分は、61キロから70キロが全体の32%を占めており、これは先述の21歳から30歳までの年齢区分のそれを反映しているといつて差し支えない。これに次いで、61キロから70キロ(29%)、41キロから50キロ(15%)、71キロから80キロ(9%)といった順番となっており、いずれも成人の体重としては標準的な分布であるといえる。肥満や生活習慣病の原因となり得る肥満体重は見られなかった。



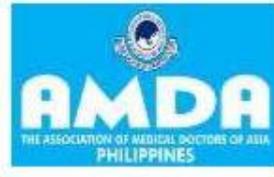
オンライン無料医療相談利用者の地理的分布：



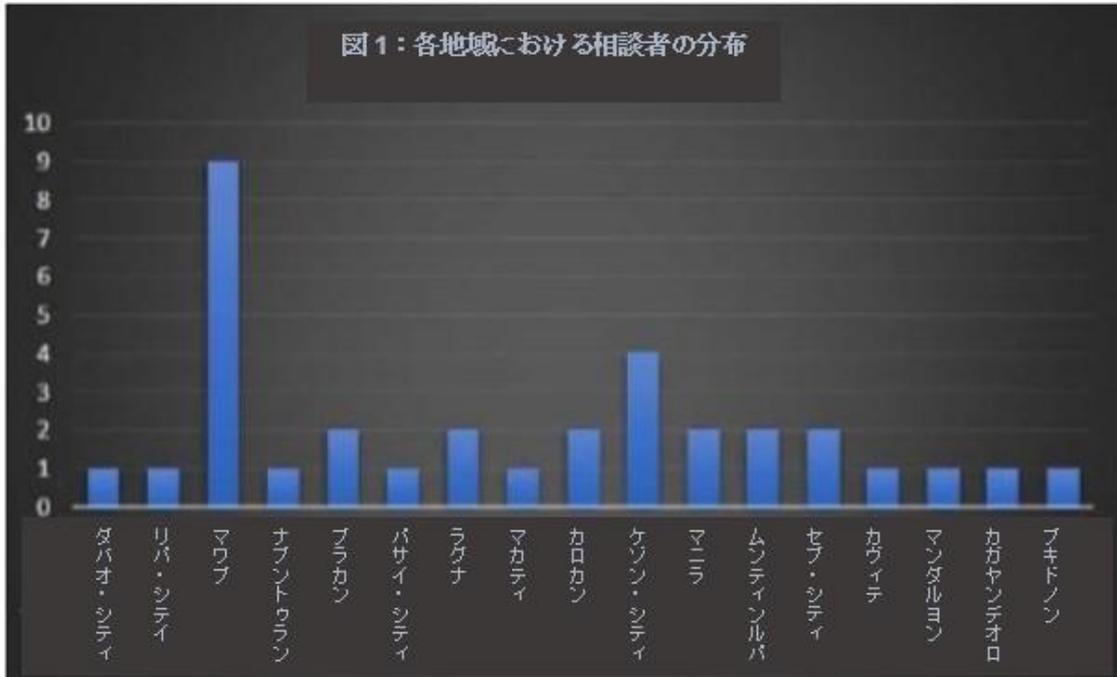
3月24日から27日にかけての利用者の地理的分布だが、その大半は今回我々の立ち上げたGoogleフォーム経由で登録を行った人達である。その在住地域は広範囲に渡っている。

ルソン：マニラ、リパ・シティ、バタンガス、バレンズエラ・シティ、マンダリオン、カヴィテ、ブラカン、パサイ・シティ、モンテシルパ、ラグナ、マカティ地区

ビサヤおよびミンダナオ：セブ・シティ、ダバオ・シティ、ナブントゥラン、ダバオ・デ・オロ、ダバオ・デル・ノルテ、マワブ等



これらの地域は今回のオンライン無料医療相談がフィリピン全土をカバーしていることを示しており、その範囲は依然として拡大傾向にある。(詳細は下記図 1 を参照)

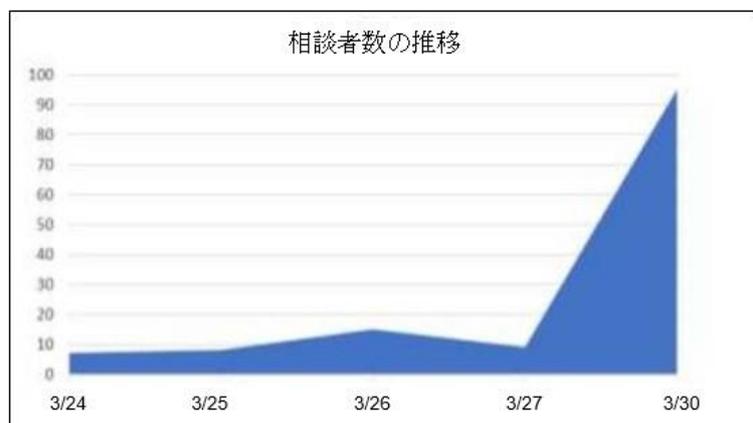


### 健康状態：

多くは、月経異常、避妊ピルの使用、PCOS(多嚢胞性卵巣症候群)など、リプロダクティブヘルス上の問題についての相談だった。その他、日ごろから薬の服用が必要とされる高血圧の症状や、メンタルヘルス上の問題を訴える相談者も見られた。またコロナウィルスの影響により、軽い咳や長期間にわたる自宅隔離措置によって、発作的な不安感に見舞われている相談者もいた。また、不安からくると思われる息苦しさが見られる相談者がいたほか、小児では上気道感染症やアレルギーなども見られた。脳卒中や皮膚疾患、扁桃炎、鼻炎、眼病等の特別なケースも露見される一方で、一部の相談者からは、新型コロナウイルス感染症予防に関するトリアージについての要望や質問などもあった。

### 提供するサービスと今後の方針：

3月23日から27日にかけて、様々な症状や問題を訴える相談者39名に対してオンライン無料医療相談を行った。医療者からの助言に対する相談者の満足感やAMDAフィリピン支部の活動が一般に広まるにつれて、活動第二週目の相談件数も増加すると予想される。





高まりつつある需要に対し、チームは AMDA 本部や現地協力機関のサポートを得て、今後も全国から電話や Facebook Messenger など寄せられた問い合わせに、できる限り応じていく方針である。感染が収束し、人々が日常を取り戻すまで、フィリピン国民のためにこのサービスを継続していく予定である。

20 名を超える各分野の医師とともに AMDA フィリピンは今後もボランティア精神に則り、協力機関と一緒に、より多くの人々にサービスを提供できるよう尽力していく。医師もまたプロフェッショナルな仕事を心掛けてオンライン無料医療相談を継続していく。ソーシャルワーカーは精神面での応急処置が必要な人に対応している。これに対して、4 人の相談者が満足したと、回答した。薬剤師は、薬に関する相談を受けており、医師から処方を受けた薬に対して、副作用が出ていないかどうか、確認している。加えて、患者情報を基にトリアージも担当し、医師とのつなぎ役となっている。



【文責】アーウィン・マルティネス・フォーラー薬剤師 (AMDA フィリピン)